



TITLE:

(随想)泌尿器科学会総会を終わって

AUTHOR(S):

梶原, 憲章

CITATION:

梶原, 憲章. (随想)泌尿器科学会総会を終わって. 泌尿器科紀要 1958, 4(6): 307-308

ISSUE DATE:

1958-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111624>

RIGHT:

泌 尿 器 科 紀 要

第 4 卷 第 6 号

昭和 33 年 6 月

隨 想

泌尿器科学会総会を終つて

熊本大学教授 橋 原 憲 章

総会終了後、稲田教授から上記の如き表題で感想をとの御指令を受け不敏をも顧みず御挨拶申し上げます。

今回の総会が熊本のような辺鄙な地で開催されたに拘らず予想外の盛況裡に終始しましたことは、主催者と致しまして感激に堪えない処で、これと申すも偏に懇切に御指導下さつた市川教授、宿題報告を快く御引受下さつた楠教授、又パネルを司会し一切について周到的な御配慮下さいました原田教授並に諸講師方、特別講演に錦上花をお添え下さつた在九州各大学の教授、助教授諸氏の熱心な御協力は申すに及ばず、会員各位の御熱意の然らしめた結果であると深く感謝いたす次第であります。殊に会場に高橋名誉会長のお元氣なお姿をお見受けしたり、坂口名誉会長から多額の御援助をいただきましたことも感激の至りでございました。

翻えつて今総会のあとを省みますと不行届勝ちな点が多く冷汗三斗の想いが致すのであります。特別講演は市川教授の総合研究班の報告の外に、何分地理的環境から平素研鑽にも微力さを痛感致しております關係上、在九州の諸大学へ特に御依頼申しそれぞれ御快諾を得、総会に絢爛たる精彩を加え得た一面、一般演説を著るしく制限するのやむなきに至り、会員多数の貴重な御研究を紙上発表に割愛願つたことや、一般演題も詮衡の重大さを考慮し、東部、中部、西部各連合地方会からお二人づつの御指導を願つたものの、最終決定は不肖なる私の独断によるところの多かつたこと、或は演題選択に重点的な所が見落された点もあつたのでは無いかと、ひたすら恐縮いたして居ります。演題募集に當つて一定の命題なり希望なりを申し上げていたら更に効果がありはしなかつたかと後になつて気付いたことでもあります加うるに紙上発表をお願いした諸賢に、あらかじめ追加討論の御希望を募集しましたが抄録の印刷配布の遅延から、その資料が早くからお手許に届かず御不便をかけたのは申訳ない次第で、自由な一般討議の時間も予め多少用意致しては居りましたが、御発言の方も無かつたのは会場での告示も徹底を欠いたのであろうかと重ね重ね恐縮に存じて居るので御座います。

だが斯くの如き不行届勝ちな総会であつたに拘らず、泌尿器科手術の現況を文献上でなく、自己の御経験から良いものは良い、悪い結果は悪いと率直明快に淡々として語られた楠教授の宿題報告、原田教授の名司会のもと、土屋、落合、大熊、柿崎諸講師の該博な研究発表、

更に三谷、加来両教授が婦人科医の立場からの特別発言、各大学新進気鋭の助教授諸氏の追加発言等、実に三時間半に亘ったパネルは、いづれも一千有余の聴衆が全く魅了されたかに見えた程で御座いました。

加うるに前記の特別講演も臨床的或は基礎的な諸研究の深遠且つ広汎な業績を三十分の短時間に要領よく発表していただけたことは斯界のため裨益する所極めて甚大で必ずや会員各位の御満足を得たことと確信致して居ります

とりわけ各座長をお願いした先生方が、それぞれの演題に関連して感想、批判、希望などの特別発言をして下さったことは、研究の進め方、考え方に有益な示唆を与えられて唯々感謝あるのみであります。

一般演説の方も亦同様、小時間に簡潔に御発表下さいまして円滑に滞りなく此の会を有意義ならしめた各位の御協力に対しましても、ありがたく存じ御礼を申し上げます。

一体学会のあり方は様々あろうと存じますが、西薩熊本の如き土地では、ある程度の制約を受けざるを得ぬ点を御諒承下さいまして、御意に添い得なかつた所は寛大にお許し下さいますれば幸甚であります。

次回東京での総会は医学会総会の分科会であるため独自の企画は不可能かと思われませんが、次々回は大都市の大阪であり、会長は俊邁な楠教授であられるため、既に卓越した構想を方寸に持つていらつしやると存じますが、願えるならば熊本での失敗を活かして頂き、又会員諸賢も至らなかつた熊本総会の数々の点を思い切り御批判下さいまして、新たな御構想なり御企画を楠教授へお話し下さらば楠教授も喜んで御考慮いただけると存じます。

最後に市川教授、富川教授、土屋博士、楠教授、原田教授、落合助教授方の懇切な御指導、御援助、会員各位の熱心な御支援と御協力、及び恩師三宅勇、北村包彦両先生の有難い御垂示、御鞭撻に対し心からなる謝意を表する次第であります

以上秃筆を冗漫に呵しましたが、御判読頂けますならば幸甚これに過ぎるものは御座いません（4月25日記）